

# 第 1 回 KIT-BBM 市民講座 参加報告

海洋プラスチック問題とマイクロプラスチック汚染の現状と未来

2019 年 10 月 14 日 13:00 ~ 16:30

京都工芸繊維大学 60 周年記念館

開会の辞 櫻井伸一 教授・バイオベースマテリアル学専攻長（京都工芸繊維大学大学院 BBM）

## 講演

島村道代 氏（海洋研究開発機構）

「海洋プラスチック問題～科学的事実から考える過去・現在、そして私たちが創る未来～」

大嶋雄治 教授（九州大学大学院農学研究科）

「水性生物におけるマイクロプラスチックの影響」

糟谷健一 教授・食健康科学教育研究センター長（群馬大学大学院理工学部）

「マイクロプラスチック汚染問題と生分解プラスチック」



櫻井伸一 氏



島村道代 氏



大嶋雄次 氏



糟谷健一 氏



司会 安永秀計 氏  
(BBM 准教授)



櫻井氏から、BBM では生分解プラスチック、植物性プラスチックなど脱石油資源を研究されているとのことで、2010 年に始まり 9 年経つこと等の説明がありました。これからは年に数回こうした講座の開催を考えているとのことで、次回以降も楽しみにしています。

島村氏から、海洋汚染の 70%以上がプラスチックゴミで、シングルユースの使い捨て品を含むあらゆる種類が該当していること、また 2019 年 5 月に日本では「プラスチック資源循環戦略」として 3R（リデュース、リユース、リサイクル）が発表されたことなどの説明がありました。焼却処分を主とした日本の循環社会構築への対応が急務であることがよくわかりました。

大嶋氏から、海洋に流出したプラスチックは 2050 年には魚の総量と同じになるとの驚きの予測がありました。マイクロプラスチックの生態系への影響について、メダカを使って産卵、ふ化、排泄の研究をされ、フナムシに食べさせた実験の報告はたいへんユニークで、そのご努力に敬意を表したい。

糟谷氏は 69 枚の画像を使用して、マイクロプラスチック汚染問題と生分解プラスチックについて詳しく説明されました。生分解プラスチックについては用語として知っている程度でしたが、細部について説明があり、学術として進められている概要をお教え頂きました。ありがとうございました。

(KIT 同窓会 広報 河島)